

第1章

-
- 1 ビジョン2050第1次実施計画の策定の背景と必要性
 - 2 ビジョン2050第1次実施計画の位置づけ
 - 3 計画期間

[第1章 ビジョン2050 第1次実施計画の策定にあたって]

基本理念

命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園

1 ビジョン2050 第1次実施計画の策定の背景と必要性

円山動物園は、2007年（平成19年）3月に札幌市円山動物園基本構想（以下「基本構想」という。）を策定し、その実現に向け基本計画（2007～2016年度（平成19～28年度））を定め、具体的な実施事業については、概ね5年の短期計画に基づき動物園運営を進めてきました。

そうした中、2015年（平成27年）7月に不適正な飼育方法が原因でマレーグマを死亡させる事案を起こし、動物管理センターから改善勧告を受ける事態が発生しましたことから、改善計画に沿って、獣医師機能の強化や動物飼育の専門知識・技術を有する専門職の新設のほか、開園時間や休園日の見直しなどを行ってきました。

一方、動物福祉や生物多様性の保全、さらには持続可能な開発目標（SDGs）の制定など、国内外の動物園を取り巻く環境や求められる役割が基本構想策定時から大きく変わってきており、こうした変化に対応するため、円山動物園の役割や取組の方向性について改めて明確にする必要がありました。

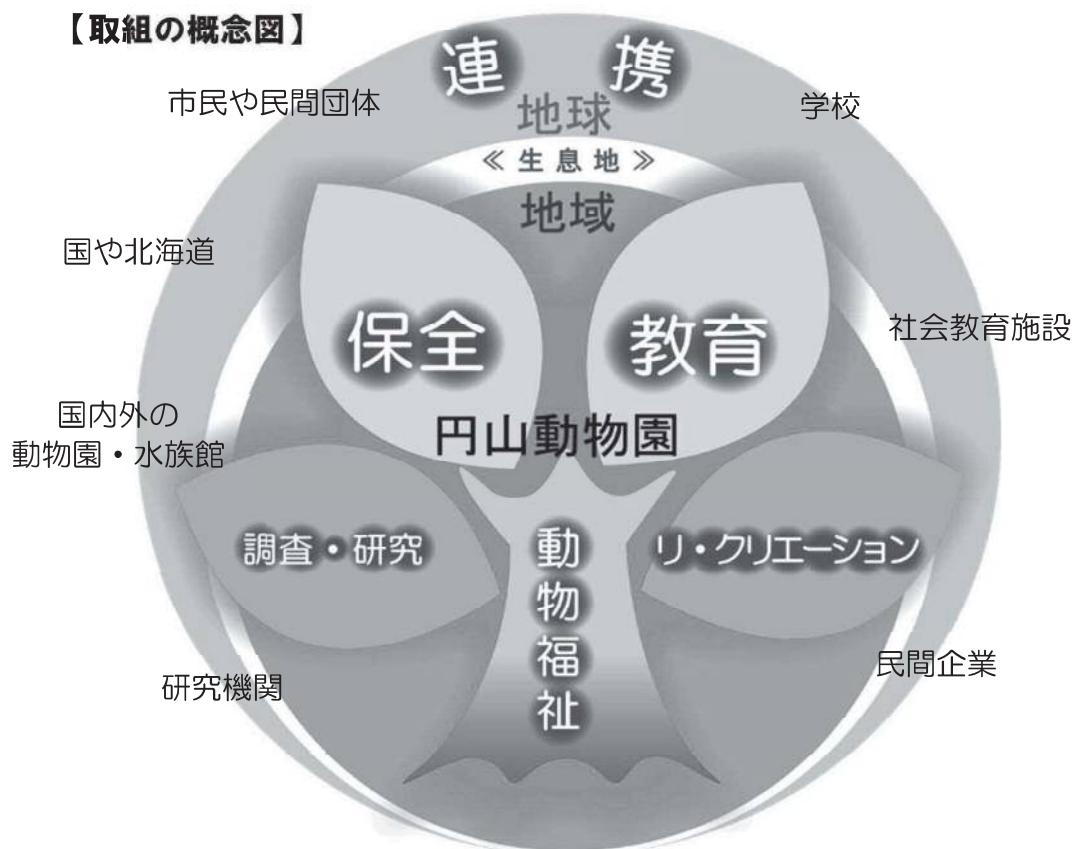
こうしたことを踏まえ、基本構想に替わる新たな基本方針として、開園100年を迎える2050年に向けて「ビジョン2050」を策定し、基本理念「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」を目指しているところです。

今回策定する「札幌市円山動物園ビジョン2050 第1次実施計画」は、基本理念を実現するため、動物福祉を根幹に「保全」「教育」「調査・研究」「リ・クリエーション*」の取組を重点的に推し進めるための計画であり、経営に関する具体的な取組についても示しながら、持続可能な動物園運営を目指していきます。

※【リ・クリエーションの場としての動物園】

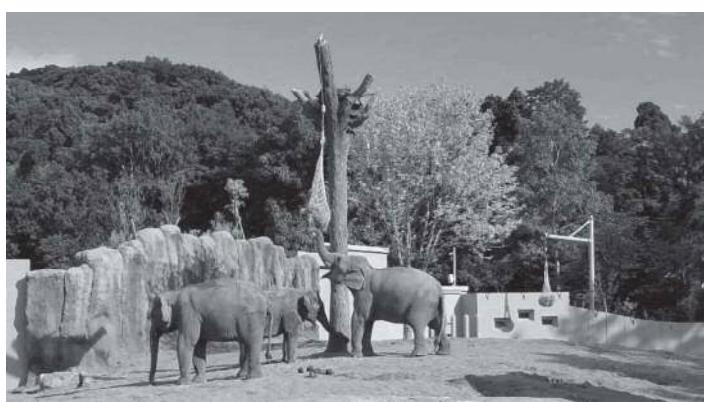
レクリエーション（recreation）という言葉は、ラテン語の「re-creare」が語源と言われており、回復するや元気づける、新たに創造するといった意味があります。円山動物園は、元気を回復したり、新しい考え方や意識を芽生えさせたり、無邪気な心を思い出したりと、豊かな人間性を育んでもらうことも動物園の役割と考えているため、「ビジョン2050」では、レクリエーションに代わる表現としてリ・クリエーションを再創造と定義して使用します。

【取組の概念図】



動物福祉

動物が、健康で、快適で、栄養状態が良く、安全で、本来の行動が発現でき、痛み、恐れ、苦悩などの不快な状況で苦しんでいない状態にあれば、その動物は良好な福祉状態にあるといえます。動物福祉は、家畜の福祉を確保する政策として西欧で広まった考え方ですが、現在は、動物園・水族館においても、動物福祉の向上は飼育管理するものの責務として、その考え方や手法は、施設建設や飼育管理などの取組に生かされています。



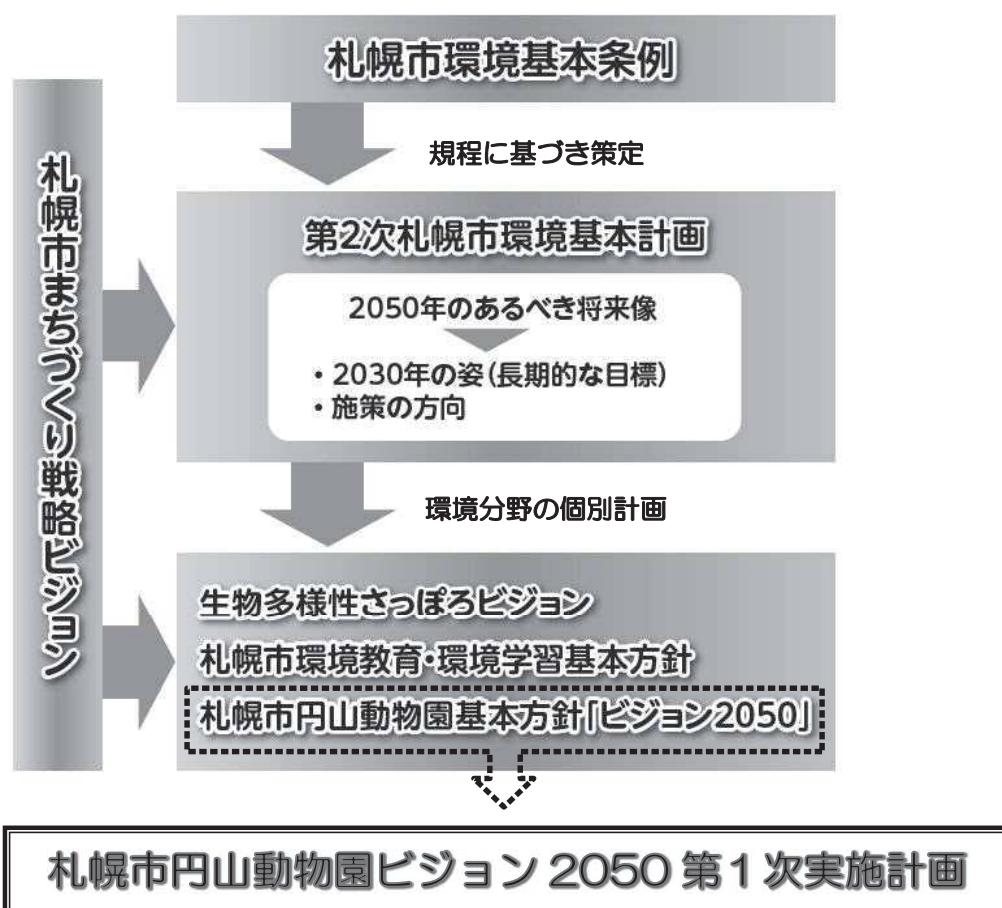
2 ビジョン 2050 第1次実施計画の位置づけ

本計画は、基本方針「ビジョン 2050」の基本理念である「命をつなぎ 未来を想い 心を育む動物園」を実現するため、円山動物園の具体的な事業・取組をまとめたものであり、札幌市のまちづくりの基本的な指針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（2013年（平成25年）2月）に基づく個別計画に位置づけられるものです。

また、「第2次札幌市環境基本計画」や「生物多様性さっぽろビジョン」が目指す都市と自然が調和した自然共生社会の実現に貢献する取組を進めていきます。

さらに、持続可能な開発目標（SDGs）については、円山動物園においても、17の目標のうち、生物多様性の損失の阻止を目指す「15 陸上資源」を筆頭に、「4 教育」「6 水・衛生」「7 エネルギー」「12 生産・消費」「13 気候変動」「14 海洋資源」に関連した取組を推進します。

関連条例・計画等の関係



3 計画期間

この計画は、2019年度（令和元年度）から2023年度（令和5年度）までの5年間の事業・取組を掲げています。

なお、札幌市まちづくり戦略ビジョンの中期実施計画であるアクションプラン2019（2019～2022年度（令和元～4年度））との整合を図っています。

